OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	春、和歌山で「会う」
Author(s)	楠本, 瑶子
Citation	臨床哲学のメチエ. 2012, 18, p. 22-23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23023
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

春、和歌山で「会う」

楠本瑶子

3月12日から13日にかけて、和歌山で春のALS合宿が行われました。今回は立正大学、湘南工科大学、大阪大学を中心に20人ほどが参加しました。ここでは簡単に、合宿での対面交流と対話を中心にご紹介したいと思います。

12日
ALS患者さんとの交流
/ 和歌浦アートキューブ

■コミュニティボールづくり

今回は夏合宿をふまえ、いろいろな大学から参加するということもあり、話しやすい場をつくろうと合宿の最初にコミュニティボール*をつくることになりました。

5つの質問 (1. 呼ばれたい名前 2. この合宿とのかかわり 3. 元気になるのはどんなとき?/ 元気の源は? 4. あなたのこだわりは? 5. 昨日はどんな一日を過ごした?/4月からは何をする?/ 最近ハマったことは?/ あなたの趣味は?) に答えながら、患者さんの久住さんや林さん、そのご家族、ヘルパーさんも含めてその場にいるひと全員で糸を巻いていきました。

■「ほぐすんです」贈呈

その後､林さんのためのマッサージ機｢ほぐすんです」の贈呈へ。使い方やマニュアルなど、林さんの要望にこたえながら、ご本人自身が快く使えるようにデザインされたものを説明していきます。

■スイッチ、いろいろ

それと同時並行で、久住さんがピアサポートの際に工夫してつくっておられるさまざまなスイッチを見せていただきました。そのひとの得意な身体の動きに合わせてデザインすることや素材や色で楽しむことも重視してスイッチをつくっていらっしゃる様子がうかがえました。

■元気の源は?

今度はふたたび全員で輪になって、「元気の源」について話し合います。久住さんは元気の源は人間のあらゆる「欲」と仰り

「『欲』と『良く』は読みも同じ。あらゆることをいまより良くしていこうということが元気の源。」と話されました。また、林さんは私たち学生が会いに来ることや、ひとと会うことがとても生活のハリになるとお答えくださいました。

13日

コミュニティボールをつかった対話

/ 和歌山ふれ愛センター

二日目はうってかわって、学生を中心に「仕事って?」をテーマに３時間ほど対話をしました。

■仕事ってなんだろう?

前半は「仕事は生きていくために必要な手段」や「アルバイトと仕事との違い」、「仕事と自由」「仕事と責任」「だれのために仕事をするのか」「仕事を選ぶこと」など、仕事にまつわるさまざまなことに考えがめぐらされました。

■一日目の交流を振り返って

また後半は、和歌山一日目を振り返りながら、久住さんや林さんからうかがったことと「仕事」との関係について話し合いました。「欲」と「良く」が仕事につながっていくことや、「ひととあってともに作業をすることがひょっとして仕事なのではないか」などが挙がり、「ほぐすんです」を数人で一緒に制作したことも、ひょっとして仕事だったのではないかと、いままでの作業を振り返るひと場面もみられました。

■和中さんのお見舞いへ

毎年合宿に参加してくださっていた和中さんが体調を崩されて入院されているということで、合宿参加者で病院までお見舞いにうかがいました。

病院では和中さん用の「ほぐすんです」の説明や、いままでにこの合宿に参加してきたひとのメッセージカードをお渡ししました。

二日をかけて、様々な人に会うことができました。一日目に聴いた「人と会うこと」と「よく」のことを、もっと考えていきたいと思わされた和歌山での経験でした。

（くすもと　ようこ）

注

* コミュニティボール：「こどもの哲学で用いられる、ハワイ発祥のツール。授業に参加する者は車座になって座り、用意された質問に答えながら毛糸を巻く。全員が質問に答え終わったら、進行役は毛糸をまとめてボールを完成させる。」『臨床哲学のメチエ』17号、p.18を参照のこと。